

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	コンサート概論 1	
科目基礎情報					
開設学科	コンサート・イベント科	コース名	コンサート制作コース・イベント企画コース	開設期	前期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	30 時間
単位数	2 単位	授業形態	講義		
教科書/教材	参考書・参考資料等は、授業中に指示します。				
担当教員情報					
担当教員	八幡 一郎		実務経験の有無・職種	有・コンサートプロモーター/コンサートプロデューサー	
学習目的					
音楽ライブ・音楽イベント制作業務について必要不可欠な知識を習得する。音楽業界を中心に多岐に渡る様々な職種について幅広い知識を得ることにより、エンタテインメント産業の全体像を学習する。目紛しく変化が著しい音楽業界において現状の動向を踏まえながら、未来のライブイベントビジネスをリードするイベントプロデューサー、コンサートプロモーターの人材として、知識と能力を身につけることを目的とする。					
到達目標					
ライブイベントにおける企画段階のアイデア構築から演出プランを策定し、実施会場、チケット販売委託業社等の関係各所への手配や調整、マーケティングから紐付けられるプロモーション施策の策定、ライブイベント実施日に向けての様々な準備そして実施当日の運営業務まで、ライブイベント開催における全体的な一連の流れを時間軸に沿ってその行程を理解する。ライブイベント制作実務を学ぶことにより、ライブイベントの自主企画実施開催を目標とする。					
教育方法等					
授業概要	ライブエンタテインメントビジネスを志すことは基本的なエンタテインメント業界の仕組みを踏まえ、幅広くその業界に携わる関係職種や業務を知ることが必須である。基本的なエンタテインメント業界の知識を習得し、音楽業界の核となるプロダクション・レコードメーカー・音楽出版の構造を理解する。さらにライブエンタテインメントビジネスに特化したアーティストマネジメント業務、プロダクション業務、コンサートプロモーター業務、イベンター業務を学ぶ。				
注意点	学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視しキャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める。社会の動きや音楽業界の状況などを概説するので、自分でも、情報を収集し、起こっている事象の原因や今後の推移について考える。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験	60%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	レポート	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	成果発表 (口頭・実技)	10%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	基礎実習ローテーション①		RIAリポート「音楽メディアユーザー実態調査」を参照し同世代の音楽の関わりを理解する		
2回	基礎実習ローテーション②		アーティスト、プロダクション、プロモーター、イベンターの関係性を理解する		
3回	基礎実習ローテーション③		ライブが開催される会場の名称や規模を理解する		
4回	基礎実習ローテーション④		ライブ開催当日の流れについて理解する		
5回	コース別コンサート概論開始 オリエンテーション	オリエンテーション	年間講義スケジュールを提示し、受講への心構えを理解する		
6回	ライブ制作の基本①		企画、制作、運営、プロモーションの意義、業務を理解する		
7回	ライブ制作の基本②		アーティストとプロダクションとの契約について理解する		
8回	ライブ制作の基本③		ライブ開催の形式、開催目的、著作権に関わる演奏使用料について理解する		
9回	ライブ制作の基本④		会場押さえ、会場付帯設備、会場使用規約、施設命名権について理解する		
10回	ライブ制作の基本⑤		アーティストへの出演交渉、各業者の選定、折衝、発注、運営スタッフの手配について理解する		
11回	ライブ制作の基本⑥		楽屋管理、楽屋受付、関係者受付、ケータリングについて理解する		
12回	プロダクション業務①		アーティストのキャリア開発、育成について理解する		
13回	プロダクション業務②		アーティストマネジメント業務について理解する		
14回	アーティスト資料・楽器研究		アーティスト資料の取り扱い、4ピースバンドで使用される代表的な楽器、機材、音色について理解する		
15回	ライブセッティング図		ライブセッティング図を作成し、使用目的を理解する		

日本工学院八王子専門学校		開講年度	2019年度（平成31年度）		科目名	コンサート概論 1	
科目基礎情報							
開設学科	コンサートイベント科		コース名	コンサートPAコース		開設期	前期
対象年次	1年次		科目区分	必修		時間数	30時間
単位数	2単位		授業形態	講義			
教科書/教材	毎回レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。						
担当教員情報							
担当教員	平本 敦彦			実務経験の有無・職種	サウンドエンジニア/管理職		
学習目的							
音響という世界に興味を持ち、あるいは音響シーンでプロとして活躍し将来にわたり、ライフスタイルを築き上げるための仕事という行動に、安全、礼儀、娯楽性、効率の4項目を基礎とした自然、電気、動物の性質を考慮しながら良い音を追求することを目的とします。基礎実習ローテーション期間中はすべてのコース対象に音響の基礎を学び、コース選択後は実習と合わせてより詳しく実践的に音響を学んでいきます。							
到達目標							
基礎実習ローテーション期間は希望コースにかかわらず、ライブイベントの中の音響(サウンドエンジニアリング)技術の分野を理解し、コース選択後は基礎音響学をもとに、音のしくみや聴こえ方、音響機器の特性など実習で行っていることと合わせて理解していきます。最先端技術を充分に理解し、技術はあらゆる人々に信頼される言動に表れるよう人格形成を目標とします。							
教育方法等							
授業概要	大切なことは進みすぎず、学生の様子を考慮し人にやさしいエンジニアの育成に注意しながら、電氣的アプローチから良い音を考察します。						
注意点	学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視しキャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。						
評価方法	種別	割合	備 考				
	試験・課題	90%	試験と課題を総合的に評価する				
	小テスト	0%					
	レポート	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する				
	成果発表 (口頭・実技)	0%					
	平常点	0%					
授業計画（1回～15回）							
回	授業内容			各回の到達目標			
1回	働く意味について考える			コンサートを構築しているスタッフの役割を理解する			
2回	なりたい自分を創る			コンサートを構築しているスタッフの関係を理解する			
3回	学生と社会人の違いを認識する			コンサートは多数のスタッフの人格、人種、技術、によって成り立っていることを理解する			
4回	動物の聴覚について(1)			何のための耳なのか。耳の特性を理解する			
5回	動物の聴覚の意味(2)			事物に対する音の利用法を理解する			
6回	人の聴覚(1)			人の耳と人以外の聴覚の違いを理解する			
7回	人の聴覚(2)			五感とは何か？聴覚を理解する			
8回	人の感覚(3)			マイクは耳の代わりなのか、聴覚とマイクの特性を理解する			
9回	音とは何か(1)			音の正体、音はどのように伝わるか理解する			
10回	音とは何か(2)			電気信号と空気振動について理解する			
11回	音とは何か(3)			音程、音色、大きさについて、音の三要素を理解する			
12回	楽器について			大気と音について理解する			
13回	アーティストとは			言葉での意思疎通が出来る			
14回	コンサートに関わる人について			職場で必要とされるコミュニケーションが出来る			
15回	まとめ			全体のまとめ			

日本工学院八王子専門学校		開講年度	2019年度（平成31年度）		科目名	コンサート概論 1	
科目基礎情報							
開設学科	コンサート・イベント科		コース名	コンサート照明コース		開設期	前期
対象年次	1年次		科目区分	必修		時間数	30時間
単位数	2単位		授業形態	講義			
教科書/教材	舞台・テレビジョン照明＜基礎編＞(日本照明家協会出版)、 現場で役立つ舞台関係用語集 ステージ・PA・照明用語事典(リットーミュージック)						
担当教員情報							
担当教員	御器 沙織			実務経験の有無・職種	有・舞台照明		
学習目的							
音楽業界だけでなく、エンターテインメントに必要な照明として、最低限必要な舞台照明の技術・知識を身につけ、社会人として必要なコミュニケーションも指導していく。また、照明では高所に機材を設置する為、作業においての安全も理解する。1人で出来る仕事ではない為、協力し助け合い切磋琢磨が必要。より良いコンサートやイベントにするには、重要性を理解し意思疎通ができる事を目的とする。							
到達目標							
・安全に対する心構えとして、コミュニケーションの必要性を理解する。 ・各種灯体の効果・特徴を理解し、電気回路の基礎を理解する。 ・調光卓の機能、舞台照明の規格の一つであるDMX512規格概要を理解する。 ・舞台照明は一人で出来る作業ではない為、実習を通じて、他人とのコミュニケーションを身に付ける。							
教育方法等							
授業概要	基礎実習ローテーション期間中は、舞台照明とは何であるか、舞台照明の効果、照明設備の名称と役割、照明スタッフの仕事の内容など舞台照明に関する基本的なことを学ぶ。コース選択後は、コンサート照明スタッフとしてより専門的な知識の理解をはじめ、より詳しく照明器具の種類やカラーフィルターの種類、LEDライトやムービングライトについて学んでいく。さらに片柳記念ホールの実習ライブを通じて実践する。						
注意点	授業時数の4分の3以上出席しないものは評価しない。実習やゼミで一度行っただけでは、自分に身に付くはずはないので必ずメモを取る事。そのメモは授業などで使うノートではなく、携帯に便利な小型のメモ帳を推奨します。メモの取り方の注意は、後日自分で確認した時に確実に理解出来るように心掛ける。分からない事、自信がない所は積極的に質問してその場で解消できるようにする。						
評価方法	種別	割合	備 考				
	試験・課題	80%	授業内容の理解度を確認するために実施する				
	小テスト	0%					
	レポート	10%	宿題や見学のレポートなどを真剣に取り組んでいるか、提出状況によって評価する				
	成果発表 (口頭・実技)	0%					
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する				
授業計画（1回～15回）							
回	授業内容			各回の到達目標			
1回	『舞台照明』という仕事とは、照明人としての資質。①			舞台照明とは何か、照明の効果、舞台スタッフとしての資質、将来の進路に関する認識を理解する。			
2回	『舞台照明』という仕事とは、照明人としての資質。②			舞台照明とは何か、照明の効果、舞台スタッフとしての資質、将来の進路に関する認識を理解する。			
3回	現場作業における安全、舞台機構と照明設備の実態①			安全に関する事柄・注意事項、舞台機構・照明設備の名称と役割、スタッフとしての一日の流れを理解する。			
4回	現場作業における安全、舞台機構と照明設備の実態②			安全に関する事柄・注意事項、舞台機構・照明設備の名称と役割、スタッフとしての一日の流れを理解する。			
5回	共通用語としての専門用語①			舞台用語、照明だけでなくPAなどの専門用語を理解する。			
6回	共通用語としての専門用語②			舞台用語、照明だけでなくPAなどの専門用語を理解する。			
7回	照明器具の種類・フィルターの基礎①			照明の一般的な灯体とカラーフィルターの種類と特徴を理解する。			
8回	照明器具の種類・フィルターの基礎①			照明の一般的な灯体とカラーフィルターの種類と特徴を理解する。			
9回	グレード試験						
10回	コース選択に伴い、照明に特化した内容となる。照明機材の特性①			照明器具の種類・フィルターの基礎①での内容を復習し、機材の特徴等を理解する。			
11回	照明機材の特性②、効果器具・フィルター・アクセサリーについて			特殊効果器の灯体(エフェクトマシーンなど)に必要なアクセサリーによる明りの拡張性を理解する。			
12回	照明機材の特性3灯体の種類と特性について			近年、主に使用されているLEDライトやムービングライトの種類や特徴等を理解する。			
13回	明かりづくりの手順①			舞台照明としての空間デザインをする際の作成の仕方やポイント等を理解する。			
14回	明かりづくりの手順②(音源からQシートまで)			音源からQシートの作成の仕方を理解する。			
15回	まとめ			全体のまとめ			

日本工学院八王子専門学校						開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	コンサート概論 1	
科目基礎情報										
開設学科	コンサート・イベント科			コース名	コンサート舞台コース			開設期	前期	
対象年次	1年次			科目区分	必修			時間数	30時間	
単位数	2 単位			授業形態	講義					
教科書/教材	毎回レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。									
担当教員情報										
担当教員	板子 光男				実務経験の有無・職種		有・舞台監督			
学習目的										
舞台の基本を学び、礼儀、コミュニケーション能力、多数の人をまとめる能力、美術、舞台の歴史、多岐にわたる舞台の基本を身につける事を目的とする。										
到達目標										
舞台の基礎となる、劇場の機構、舞台用語、稽古から公演に至る道程、基本的な大道具（舞台美術）等、舞台監督になる為の道を学ぶ。実際の舞台現場に出た時、基本的な事柄で困らずに舞台の仕事が(スムーズに)できるための知識をつけることを目標とする。										
教育方法等										
授業概要	毎回のプリント配り、30年間私が舞台で経験した事の現場の出来事を取り入れ、実践してた事を話し、質問等を多く取り入れ、コミュニケーション能力を高めて貰い、実際、舞台人として現場で働けるよう(基本を)学ぶ。									
注意点	学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視しキャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。									
評価方法	種別	割合	備 考							
	試験・課題	50%	試験と課題を総合的に評価する							
	小テスト	0%								
	レポート	0%								
	成果発表 (口頭・実技)	20%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する							
	平常点	30%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する							
授業計画（1回～15回）										
回	授業内容				各回の到達目標					
1回	舞台で仕事する上での基本				挨拶等含め、仕事始める前の基本を理解する。					
2回	劇場の基本的知識 1				劇場の基本的機構の理解する。					
3回	劇場の基本的知識 2				現場においての、劇場の使い方の基本を学ぶ。					
4回	舞台づくりを支えるスタッフに関して				どのようなスタッフと仕事していくか。舞台監督、舞台進行について。					
5回	劇場入りまでの仕事 1				スタッフ会議、各スタッフの打ち合わせ、大道具（美術等）について。					
6回	劇場入りまでの仕事 2				大道具以外の準備、稽古場進行。劇場と打合せと届け書類					
7回	劇場入りから搬出までの仕事 1				搬入から仕込み、舞台稽古の仕事					
8回	劇場入りから搬出までの仕事 2				本番までの舞台監督の仕事、本番中の仕事、終演後の仕事、バラシと搬出					
9回	舞台を作る 1				作業のための基本事項、床を決める、幕をつける。					
10回	舞台を作る 2				高さ作る、吊る、立てる。					
11回	舞台の仕掛けと表現のための工夫 1				舞台転換、舞台機構を使う転換、引枠転換、その他の転換					
12回	舞台の仕掛けと表現のための工夫 2				落とす。飛ばす。消す。煙を使う、歌舞伎の仕掛け					
13回	こんな時どうするか、知っておくと便利				床印を作る。専用の物差し作る。譜面台を使う、トランシーバーを上手に使う等、その他					
14回	演劇の歴史				ギリシャ演劇、シェークスピア、歌舞伎					
15回	まとめ				全体のまとめ					